

人文地理学概論Ⅰ

人文地理学概論

Introduction to Human GeographyⅠ

FUJII Takehiko

藤井 毅彦

科目ナンバリング：DEC-2-360-05/DIB-2-431-05/DIS-1-351-05/DLP-2-365-05

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目



■授業の目的及び到達目標

本講義は将来、地理の授業を担う学生を対象としている。中学・高校の地理では、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する基礎力を培うことが求められている。前期・後期を通じて人文地理学の概括的な知識と方法を身に付けることを目的に、多様な地図や統計等を読み解く多角的な視点を得ることを到達目標としている。

■授業計画

- 1 「人文地理学」とは何か
「人文地理学」の研究領域を体系的に説明するとともに、人文地理学のさまざまな見方・考え方を知る。
- 2 人文地理学と地理空間情報
人文地理学において重要な分析ツールである「地図」について、その種類や表現方法、活用の仕方などを学ぶ。
- 3 自然災害と防災
日本および世界の自然災害を概観するとともに、人文地理学の視点がどのように防災に役立つのかを理解する。
- 4 人口①
日本および世界の人口分布を概観する。また、人口移動と都市化について理解する。
- 5 人口②
人口問題について理解するとともに、それらの地域的特徴を把握する。
- 6 農業①
多様な農業形態を概観するとともに、農業の立地に関する理論モデルを紹介する。
- 7 農業②
日本および世界の農業について、その地域的特徴を把握する。
- 8 工業①
工業発展の歩みを確認しながら、どのように工業が分化し、立地してきたのかを理解する。
- 9 工業②
日本および世界の工業について、その地域的特徴を把握する。
- 10 商業・サービス業①
モータリゼーションやコンビニエンスストアの台頭といった、商業をとりまく地域変化を理解する。
- 11 商業・サービス業②
現代商業を支えるグローバルな貿易について、その構造および地域差、経済連携などを理解する。
- 12 産業と地域
前期で学んだ産業に関する人文地理学のアプローチ手法を総括し、議論することで人文地理学の多角的視点について理解を深める。
- 13 まとめ
学期試験とそのフィードバックとしての解説。

■授業の方法

講義形態を基本とするが、各講義で取り扱うテーマに関して積極的なグループディスカッションやグループワークへの参加が求められる。さらに各テーマに即した課題に取り組んでもらうことで学生の理解を深めていく。※講義内容は進行状況によって前後する可能性があります。

■予習・復習

【予習】授業計画の各テーマについて教科書を読み、日頃から時事問題にも注目して下さい。

【復習】講義内容の要点を整理し、講義で行った課題の趣旨や内容も再確認してください。

(合計1時間)

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

授業参加(グループディスカッション・リアクションペーパー・課題など) 60%, レポート・試験 40%

※レポートの未提出、試験の未受験は評価対象外となってしまいますのでご注意ください。

■教科書・参考書

【教科書】新詳地理資料 COMPLETE 2026 (帝国書院)

【参考資料】適宜配布

色鉛筆（3本程度）をご持参いただくとよいと思います。

■関連する科目

人文地理学概論Ⅱ, 人文地理学

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は、総合商社およびベンチャー企業において、地理空間情報・GISの商業利用推進に関する日本・米国・中国での実務経験を有し、当該科目における産業や経営の実情に関して教授します。